

# 古文書倶楽部

平成二十三年年度企画展

## 「近代秋田の電気事業」のご案内

夏もいよいよ本番となりました。毎日のようにテレビでは、「省エネ」「節電」「エコ」が話題となっており、今年は例年以上に「電気」に注目が集まっております。

さて本年は「秋田に電気が灯って一一〇年」の年にあたり、公文書館での企画展では、今年度は「近代秋田の電気事業」と題して、秋田の電気歴史について取り上げることになりました。

今回は土崎港町と秋田市で電灯事業を興した近江谷栄次に関する資料を紹介します。

下の「公園事務簿」には明治三十四～三十七年（一九〇一～一九〇四）までの施設設備に関する寄付や修繕工事などの記録が綴られています。明治三十四年、秋田県は入園者の便宜を図るため、公園（現千秋公園）内に三基の電灯を点灯することにしました。

この時、アーク灯を設置し、電気を通したのが、近江谷栄次の近江谷電気でした。「電燈料見積書」をみると、一、二〇〇燭光アーク燈（ジヤンダスアークランプ）一基の一月の点火料は二五円となっています。明治四十年ころの一円は現在の価値にしておよそ一、〇〇〇円といわれているので、電灯一台の電気料金が一月でおよそ二五、〇〇〇円ほどで、三基で一か月

【発行】  
秋田県公文書館  
2011.7  
第41号

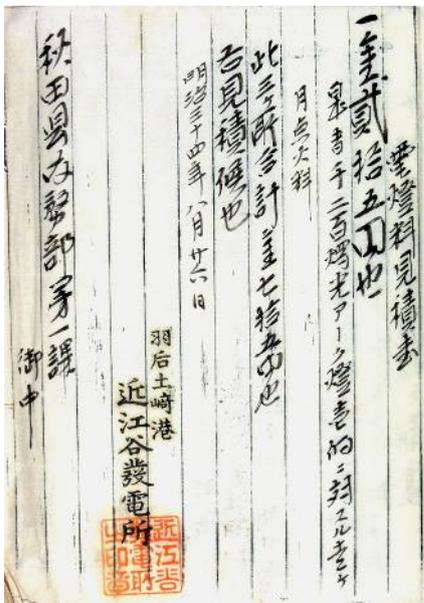
企画展「近代秋田の電気事業」（前期）は、来る八月二十六日（金）から九月二十六日（月）まで、公文書館二階の特別閲覧室で開催します。皆様の「来場を、お待ちしております。

七五、〇〇〇円と、電気が当時にかに高価で贅沢なものであったかが、この資料から分かります。

展示では、近江谷以外にも能代の井坂直幹や、増田の松浦千代松の資料も紹介する予定です。その他にも、彼らの事業以前に発電を行った鉱山関連の資料や、戦時下の電力統制に関するものなど近代秋田の電気事業の歴史資料を紹介いたします。

公文書には、現代の私たちの生活のルーツを知り得る資料がたくさん含まれておりますので、今回の「電気」というテーマを入り口にして、御来館の皆さまに公文書を閲覧していただき、新たな発見をしてください幸いです。

【神居正暢】



明治三十四年以降「公園事務簿」  
（資料番号 九三〇一〇三一〇八四二三）

## 「県政映画」上映会のお知らせ

当館では、県の記念日の関連事業として、「懐かしき昭和30年代の我が秋田」と題し、「県政映画」の上映会を開催します。

かつて「県政映画」は、「県政だより」「県政ニュース」などの名前で、県内各地の映画館で本編映画の幕あいに上映され、その時々々の県政に関するニュースや各地域の話題などを提供していました。



今回は、昭和三十二年「自然林にいとむ（旧二ツ井町仁鮎）」（写真）、三十五年「開拓地に花嫁迎える（旧由利町）」、三十六年「秋田国体」、三十八年「湯沢東小マクレンコ学級」、三十九年「待望の道路工事（門前く加茂）」などの映像を含む

県政映画五本（各一〇分）を上映します。どれも当時をしのばせる貴重な映像ばかりです。ノスタルジー溢れる昭和三十年代の秋田をぜひお楽しみください。

○日時 八月二十八日（日）

一回目上映 午前十一時～十二時  
二回目上映 午後 二時～ 三時

○会場 秋田県公文書館三階 多目的ホール  
○上映映画 「県政ニュース」

昭和三十二年八月 昭和三十五年十一月  
昭和三十六年十月 昭和三十八年二月  
昭和三十九年七月

※予約不要、入場無料です。 【木村裕久】

古文書こぼればなし

### 御国産物見立相撲

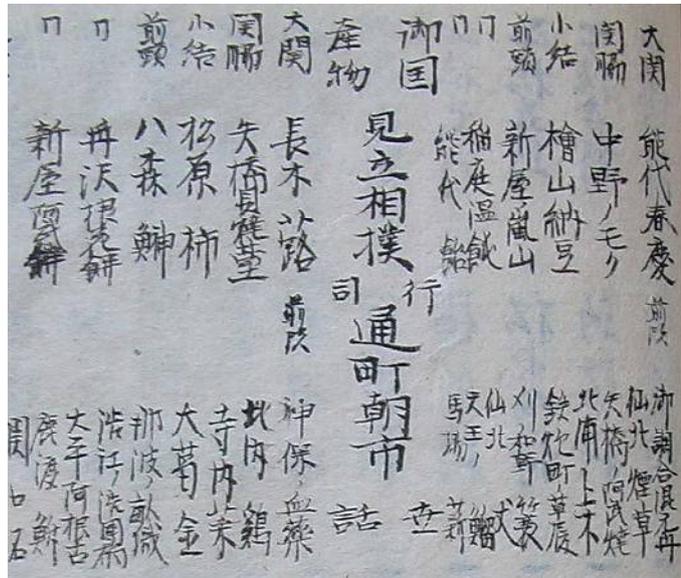
『寛齋雜記』より

何かと話題の多い大相撲も、新番付で名古屋場所が始まり、待望の本県出身二人目の関取が誕生しました。

江戸時代に入り木版摺り技術が発達して、情報伝達の媒体として一枚摺り物(摺物)が普及しました。その代表的なものが「相撲番付」、「芝居番付」です。前者は大関(横綱)から下位までの地位を、後者は役者の入れ替えや配役を記した摺物です。「相撲番付」に見立てて作成されたものは「見立番付」と呼ばれます。番付が登場するのは、寛政期、十八世紀末ごろからで、盛んに作成されるのは文化・文政期以後で、特に多いのが明治十年代とされます。相撲番付に見立てたものに、江戸の料理茶屋・菓子・鰻・鮎屋を網羅したグルメ番付「江戸の華名物商人ひやうばん」などがあります。現在、見かけるものに、遊び心で作成された「長者番付」や「全国温泉番付」などもあります。

井口宗翰『寛齋雜記』一五(混架二九一二一〇一―一五)に幕末の「御国産物見立相撲」が収載されています。御国(秋田)の名物・名産を番付に見立てたもので、現在は廃れた物や不明なものなど、東西別に大関から前頭まで記した見立番付です。この番付は摺物でなく筆書きで、実際に摺物として配布されたかどうかは不明ですが、当時の御国産を知る上で興味深いものがあります。主な内容は次の通りです。

- 《東》 大関…能代春慶 前頭…御調合混元丹
- 関脇…中野ノモク …仙北煙草
- 小結…檜山納豆 …矢橋ノ阿武焼
- 前頭…新屋ノ嵐山 …北浦上木
- 同…稲庭温飴 …鉄砲町ノ草履
- 同…能代 飴 (以下略)



『寛齋雜記』一五(資料番号 混架二九一二一〇一―一五) 「御国産物見立相撲」より部分

- 《西》 大関…長木 蓆 前頭…神保ノ血葉
- 関脇…矢橋具燒台 …比内 鶏
- 小結…松原 柿 …寺内 菜
- 前頭…八森 鮎 …大葛 金
- 同…丹沢根花餅 …那波ノ畝織
- 同…新屋阿武餅 (以下略)

番付は各四段組みで、中央部分には写真のように行司・通町朝市、世話・男鹿島廻、湊ノ夕河岸、寺内ノ富、檜山置物、能代眠流、勧進元・阿仁銅山、院内銀山が見えます。これら名物・名産などの中から特徴的なものをあげてみると、藩政期からの民謡「秋田音頭」に歌われる「秋田名物 八森ハタハタ 男鹿で男鹿ブリコ、能代春慶 檜山納豆 大館曲げわっぱ(マゲモノ)が、男鹿ブリコを除いて登場しています。稲庭温飴、比内鶏が前頭に位置しており、これらは藩政期の秋田の名物・名産として今日までその味を伝え、全国的に高い評価を得ています。

東前頭・御調合混元丹は、津村涼菴(庵)の『譚海』巻の十五「諸病妙薬聞書」に「〇きつけには、奇應丸・萬病感應丸・佐竹家の製混元丹よし」と見え、佐竹家調合薬とわかります。武家調合薬は通中散・龍王湯・赤龍丹などが有名ですが、混元丹もその一つです。漢方薬の一種、練り薬で水または湯で溶いて服用し、健胃、強心、解毒の効能があるとされます。混元丹の名称は「御有合御薬」(岡一〇〇四)、「御側医より之薬覚」(岡一〇〇六)にも見えます。

ハタハタなどの魚介類、野菜などを材料に、魚醬の塩汁(しょつる)や味噌で煮る鍋代わりの大きい帆立貝を、貝焼き皿(カヤギザラ)といっています。これに乗せる炉が西関脇・矢橋具燒臺(皿)で、貝焼き風炉(キャフロ)と呼ばれ、いわば「一人用のミニ七輪」です。キャフロは素焼き製で独特の土色をし、縁の方から風が入るようになっており、かつては、秋田市八橋付近で製造され、多くの家庭で使用していたもので

【菊地利雄】